

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を唱和して確認しています。又職員の目につく場所には理念を掲げて、いつでも確認しています。	事業所独自の理念を検討し作成しており、理念を毎朝の申し送り時に確認しているほか、事務室や共有スペースにも理念を掲示し、理念を意識したケアを心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の美容室に出掛けたり、法人の納涼祭には、地域住民が参加できるように回覧板を回して参加してもらい交流を大切にしています。	事業所のクリスマス会には近隣の保育園児にホームに来ていただき歌を歌ってもらったり、中学生の体験学習を受け入れたり、事業所の夏祭りには地域の方にも参加して頂くなどして地域との交流を行っています。	地域で行われている活動の情報を収集し、地域行事にご利用者と一緒に出かける機会を増やし、より地域との交流が行われることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、自治会長さんや民生委員さん、地域包括職員に出席してもらい、地域における認知症の問題の把握や施設での認知症のケアを説明して理解して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご家族、他施設職員、及び病院関係者に出席してもらい、意見交換を通じてサービスの向上に繋げています。	2ヶ月に1回、ご家族、地域包括支援センターの職員、自治会長、民生委員、病院のケースワーカー、他事業所の管理者などに参加してもらい、ホームの運営状況を報告し、意見交換を行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの職員には運営推進会議に毎回出席してもらったり、センター主催の会議等に参加する事で行政との関係を築いています。	地域包括支援センターの職員には、2ヶ月に1度運営推進会議に参加していただいているほか、地域ケア会議を通じて事例検討や不明な点の確認など、連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束をしないケアを当然の事と捉えてケアを実践しています。内部研修を行い、身体拘束に関して再認識しています。又、やむを得ず必要最低限の拘束が必要な場合、ご家族に説明を行い、同意を頂いています。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとしており、身体拘束をしないケアがなされています。また、事業所でも身体拘束に関する研修を実施したり、職員会議で言葉の使い方について指導する機会を設けるなどし、職員の理解を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議を通して、虐待について再確認をしたり、ケアについても細かく確認する事で虐待に関して注意を払っています。又、外部講師を招いての外部研修も実施致しました。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員各自が必要性を認識しており、今後全員が知識共有できるような学習の場を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者、ご家族の不安、疑問に関してはご理解、納得頂けるまで説明した上で、契約・改定行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族の希望、要望をお伺いして運営に反映しています。運営推進会議にご家族が出席出来る時には希望・要望を確認しています。又、家族会を実施等、ご家族が意見を言い易い環境づくりにも努めています。	運営推進会議や面会時のご家族とのやりとりのほか、必要に応じ連絡をとり、意向の確認を行っています。また、11月には家族会も実施し、意見を言いやすい関係作りを行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や、月一回の職員会議の様々な意見や要望を聞き、検討して反映させています。	日々の業務でのやりとりや毎月の会議、及び年2回の個人面談にて職員の意見を聞く機会を設けており、職員の意見を確認し、反映できるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は個別面談を通して各職員の思いや希望等を設けて条件等の環境整備、条件の改善を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を活用して、各職員の力量を把握した上で外部、内部研修を実施して技術の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の運営推進会議に出席したり、各種会議(包括ケア会議等)に出席することで、情報交換を行い、サービスの向上に役立っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者一人一人に担当者をつけ、ホームでの生活に不安や心配事がないか伺い、対応しています。又、ご家族にも協力いただき、ご本人の情報を得て、安心を確保できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いをする機会を作り、不安、要望に対し安心して頂ける様説明して、ご家族との信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を大切に考え、尊重し、導入後には良い方向に向かうよう必要なサービスを見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人一人に毎日の中で役割を作り、助け合って生活していることを実感して、生活に張り合いを持って頂けるようにしています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態や生活の様子を、面会時や広報紙によって報告し、理解頂き、出来るだけ多く面会の機会を作って頂ける様働きかけています。、又受診の付き添いや、必要な物品の購入等願っています。	年に4回は事業所広報をお送りしているほか、ホームでの活動の様子をまとめ担当者ごとにご利用者個別にコメントを添え、情報を発信しています。受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会時には、馴染みの方の面会をお願いしたり、個別対応で可能な時は対応しています。	行きつけの美容室への利用支援、買い物支援、知人の面会の受け入れや、ご家族にも協力して頂きご自宅やお墓参りに連れて行って頂いたり、ホームから年賀状を知人に送るご利用者もいるなど、これまでの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者の間に入って楽しく生活出来るよう橋渡ししたり、職員会議やカンファレンスを通してご利用者同士の関係を把握して支援行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際に心配事や相談事にはいつでも応じると伝え、契約終了後も連絡があれば対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人一人に担当者がつき、その方の希望、要望を詳しく把握するようにして支援行っています。その情報は職員間で共有しています。	面会に来ていただいた際にご家族の要望も確認しているほか、日々のご利用者とのやりとりの中で思いや意向の把握をし、ケース記録に記入し、カンフェレンスで職員間で共有し、支援できるようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族に聞き取りしたり、アセスメントを通してご本人の状況を確認して、職員間で情報を共有して把握に努めています。	入居前のご本人・ご家族からの聞き取りを行い、センター方式の書式に情報をまとめています。以前の担当ケアマネージャーからも情報提供を受け、これまでの暮らし方や生活環境、サービス利用経過を把握しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の訴えに対し、小さな事でも耳を傾け、少しでも不安を取り除き、安心を持って頂ける様取り組んでいます。又、ご利用者の表情を観察し心身の状態を把握するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別カンファレンスの随時開催や、職員会議を通して、ご家族の思いも反映させながら、現状に即したプランを設定しています。	月1回の職員会議の中でカンファレンス、3ヶ月に1度のモニタリングを行い、ご本人の思いやご家族、職員から集めた情報をもとに、居室担当者・計画作成担当者が参加しサービス担当者会議も実施し、定期的に介護計画を見直しています。	調査時点で介護計画の日付に記載ミスがある箇所がありましたので、今後ミスの無いようにされることを期待します。また、サービス担当者会議には、ご利用者・ご家族も参加して頂き、介護計画を検討して頂けるように検討されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りを通して職員はご利用者の情報を共有して、問題点の見直しやプランに反映させるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状を分析してその時、その場のニーズに応じて臨機応変に柔軟な支援・サービスを提供できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域の保育園児や中学生の慰問をご利用者は楽しみにしています。他にも隣接するデイサービスのボランティアの催しに参加したり、近隣の緑地公園への散歩、近所の美容室の利用も行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地区にある医療機関を定期的に受診する事で、かかりつけ医と連絡を取りながら健康管理に努めています。ご家族の希望にも可能な限り協力できるようにしています。	ご利用者・ご家族の希望する医師での受診を基本としており、ホームの協力医もおおり、定期受診もご家族が支援できない場合はホーム職員が行なうなど、必要や緊急性に応じて受診支援ができる体制になっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は毎日バイタル測定行い、記録し、変化は申し送ります。その上で看護師とは24時間連絡が取れる体制になっており、小さな変化でも相談、連絡して指示をもらえる体制になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設・病院・主治医が連携取り、定期的に現状確認の連絡をしたり、面会に行ったりして相談や情報交換を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとにご家族やかかりつけ医と相談したり意向を確認したりしています。その際には施設でできる事、できない事を伝え、ご本人、ご家族にとって一番いい方向を検討しています。又、職員間でも支援の方向性を確認しています。	重度化した場合に対する指針が文書化されており、契約時にご家族へ説明し同意を得ています。必要に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者に合わせた支援ができるよう努めています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より講師を招き救命救急講習を行ったり、看護師より応急方法の伝達や、その都度必要な処置等を指導してもらっています。	事業所でも消防署員に来て頂き救命講習を行ったり、看護師より感染症に関する研修を行うなど、適切に初期対応ができるよう対応されています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設全体で避難訓練を行い、消防署より指導頂いています。又、夜間想定での避難訓練も定期的に行っています。今後は消防団や近所の方の訓練参加も呼びかけていきます。	年2回、隣接のデイサービスと合同で日中や夜間の火災を想定した避難訓練を行っており、非常用の食品や水も確保されています。	調査時点で非常用の食品の期限が切れている品もありましたので、定期的に期限を確認されることを期待します。また、避難訓練には地域の方にも案内し、参加して頂けるように検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員がご利用者の人格の尊重やプライバシーに配慮した声かけを実行しています。また、職員会議等で再確認をしています。	職員の声かけや態度は、ご利用者の誇りやプライバシーに配慮するようにしています。契約の際に個人情報の取り扱いについて確認をしており、法人としての情報保護規定も明文化されており、職員にも周知されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中での情報は職員間で共有しています。ご利用者が何か行動を起こす時は、その方の意思を確認し、尊重しています。又、衣類を選択する際にも自己決定ができるように環境を整えて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人のペースに合わせたサービスの提供を最優先に考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者一人一人のこだわりや思いを大切に、季節等に合わせた支援を心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者一人一人の状態を把握し、調理、片付け等個々のできる部分について、職員と一緒に参加して頂き実施しています。季節に合わせた行事食も取り入れ、今後は外食の機会も検討します。	ご利用者にも食事の準備や片づけなどの作業に協力してもらっています。ご利用者と一緒におはぎを作ったり、ご家族と一緒に外食に出かけるご利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は管理表に記入してチェックしています。又、ご利用者の個々の状態、状況に合わせて、声かけ等の対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯のご利用者には職員が声かけで、時には一緒に対応しています。自立の方は、声かけの実施で清潔を保持しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の記入やセンター方式を記入することで、ご利用者の個々の状態を検討して、自立への検討を実施しています。ご利用者の状態によっては、定時のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促しています。	最初のご利用の1週間は全てのご利用者の排泄チェックを行ない、排泄パターンを把握しており、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康記録をチェックして排便の傾向等分析して便秘予防のカンファレンスを行っています。なるべく薬に頼らず、食事内容や水分量、体操等での改善を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の状態、好みに合わせた入浴の支援を、時間的には柔軟に行っています。入浴剤等も使用し、ご利用者に入浴を楽しんで頂けるよう心掛けています。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。また、入浴剤を使用したり、ゆず湯を行うなどして、ご利用者に入浴を楽しんでもらっています。	入浴拒否があるご利用者の状況についてもケース記録に記載されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間巡回行い、表情の変化を確認したり、不穏な方には声かけにて休むように働きかけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬、配薬等の業務にはチェックリスト用い、職員全員が細心の注意を払い業務を行っています。受診時に服薬変更があった際には情報を共有しています。服薬後の小さな変化も見逃さぬよう対応して記録にも残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や掃除、裁縫等その人ができることを活かし、日々の生活に張り合いをもって生活を送れるよう支援行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	四季折々に合わせた外出行事を実施している他、天気の良い日には職員との散歩も行っています。家族との外出も墓参りや外食等を働きかけています。今後は外出行事にご家族の参加も呼びかけていきます。	のどかな環境に恵まれており、天気の良い日などは近隣の散歩をしています。また、季節に合わせてお花見やぶどう狩り、瓢湖へのあやめ見学にも出かけています。	よりご家族との協力関係を築かれるよう、外出行事にはご家族にも声を掛け、参加して頂けるように検討されることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員同行で買い物に出掛ける機会を設け、好みのものを購入する際に支払いができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が希望される時に、電話できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングスペースを中心に、定期的に壁面の飾りを変えたり、置物や生花を使用して季節感の演出を心掛けています。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がゆったりとテレビを見ながらくつろげるスペースとなっています。また、ご利用者の作品や季節に合わせた飾りが掲示され、生活感や季節感の感じられる居心地のよい共有空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの自席で気のあったご利用者同士過ごせるよう配置を考慮したり、ソファや畳スペースでテレビを観たり、新聞を読んだり自由に過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みがあり使い慣れた家具や物を持ち込んで使用して頂き、自宅で生活していた時間の継続となるように工夫しています。畳敷き等ご利用者やご家族の希望にも対応しています。	居室には、使い慣れたタンスや化粧台、時計などを自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札設置し、トイレ・浴室等も表示行い、ご利用者が混乱なく施設利用できるよう工夫しています。又、身体状況に応じた福祉用具の使用を検討して、残存能力を活かし自立した生活が送れるよう支援しています。		